

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3491500249		
法人名	社会福祉法人 まり福祉会		
事業所名	まりホーム内海 (ABユニット共通)		
所在地	広島県福山市内海町イ2678		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成24年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内海大橋を渡った田島の静かな海沿いにあり、四季折々に表情を変える瀬戸内の眺めは、心の安らぎとともに明日への希望を感じさせてくれる環境にあります。近隣の方ともふれあいを大切にし、穏やかで落ち着いた生活環境を提供しています。
 毎月の便り「かけはしだより」では、写真を中心に日常生活の様子を届けています。食事は、管理栄養士による献立。手作りの料理で高齢者にとって適量で食べやすい工夫をしています。毎月の法人全体の医療・介護の勉強会で職員は学習し専門介護士としてスキルを高めています。週間ケアサービス評価表で項目毎に分類・評価をし、職員間で情報を共有し、サービスの質向上に活かしています。入居者の皆様が安心して暮らせる明るい家庭的なホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い海や緑一杯の小高い山もあり、四季の移り変わりを感じる事が出来る環境の中にあり、利用者も地域の方が多く、「リビングから海が見られ落ちつきます。」との声が聞かれ、馴染みの場所で馴染みの方々と関係を継続しながら、心穏やかに過ごされている。利用者の心に寄り添い、その人の想いを大切にしたケアに心掛けると共に母体が医療機関の為、医療面が充実し細やかな健康管理が図られている。又、法人全体の各分野の研修や事業所独自の研修等でスキルアップに努められサービスの質の向上に繋がられている。地域との連携も確立され地域貢献と社会資源の活用構築に努められている。災害対策についても地域の協力と島内事業所防災連絡会を設置し協力体制を確立するよう取り組まれている。家族、地域の協力を得、利用者の安全と安心の確保、そして笑顔のあふれる事業所に今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時、法人の理念とホームの方針を唱和し職員で共有し、理念・方針に近づけるよう意識をもって取り組んでいる。	日々の対応を振り返り、理念がケアに反映されているかを一人ひとりが確認するようミーティング等で意識付けをし実践に繋げる様取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事、運動会、地域の行事など利用者さんと一緒に参加したり、文化祭には、利用者さんの作品を展示している。又、ホームの夏まつりには、地域の方にも参加していただき交流を深めている。	地域のあらゆる行事に参加し、顔見知りの関係を築き地域の一員として生活出来る様日々取り組んでいる。又、事業所の夏祭りに近隣の方に参加してもらい交流を深めると共にホームの実態を明らかにし、地域貢献と地域資源の活用に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム運営推進会議にて地域の情報や支援について話し合っている。地域包括支援センター、福山市社会福祉協議会、福山市、警察署、公民館、地域住民の方、入居者家族等と情報交換に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事、日々の状況報告、今後の予定、地域の行事など報告し理解と協力やご意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	定期的に開催し、家族、地域の方々を含め各分野の多くの方に参加してもらい現状報告を行い、それぞれの立場の方の意見や助言を得ると共に地域との交流の場となっている。地域警察の方の参加の場合は防犯の話もあり有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保健福祉担当者の方や地域包括支援センター主催のケア会議に参加して意見を聞き取り組んでいる。ケースにより法人の本部長が行政担当者とも関わることもある。	運営推進会議の中でも実情はその都度伝えアドバイスや情報提供は得ているが色々な問題点等についても担当者と常に連携を図り協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会・ミーティング時に話し合い、理解し、知識を深めながら共通の認識で取り組んでいる。毎月の3G会議でホームの状況を報告。身体拘束ガイドラインを基に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの中で議題としケアのあり方等について話し合っている。法人全体の身体拘束委員会での研修もあり周知徹底している。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。不穏な状況がある方は表情でキャッチし寄り添い見守りで対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ミーティング、3G会議で話し合い、各自意識を持って虐待防止・予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が共通の認識となるよう、個々に必要な制度の関係者と情報交換し関係機関と連携しながらその人に必要な制度の利用について支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な契約内容の説明を行い、その上でお互いが納得し合意した上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を遠慮なく言っていただける説明をし理解を得ている。意見箱を設置し、自由に声が頂ける。家族会は、年3回開催し意見を頂き、意見や要望について家族や職員と話し合い運営に反映させている。	年3回の家族会で意見や要望は聞き取るようにしている。意見箱の設置もされている。又、ホーム便りで日ごろの状況を伝える中でも聞くようにしている。出された意見等については検討し対応すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティング、ホーム勉強会、ホームミーティングを開催。 問題などがある時は、その都度話し合い方向性を見出している。	色んな会議の場や個人面談の機会を設け個人目標の評価について話し合う際、意見や提案も聞き取り、その中での意見、提案については、管理者、職員で話し合い反映させるよう努めている。カウンセリング講師による勉強会もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に年間目標を決め自己評価を行い、一定の期間に上司がヒヤリング等を行っている。その評価を職員にフィードバックし、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・勉強会の情報を提供し参加できるように取り組んでいる。 ホーム勉強会は年間計画を立て実施。伝達講習で職員に周知。職員は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の関係機関のケア会議に参加したり、他のグループホーム等の交流を通して向上に取り組んでいる。同業者との勉強会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境の中で、ゆっくりと相手の話を聴き、時に共感したり一方ではしっかりと職員間で話し合い、共有の支援策を考えている。自宅、入居先又はホームでの機会をつくり家族とも相談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なことがあれば、説明やホーム見学の機会を設け、理解と安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要とする支援を見極める為に、本人と家族から実情を聴き、ホームでのサービスの説明や他のケースについても説明や紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に寄り添いながら一緒に出来る事を見つけて行ったり、昔の話をしたり、歌など教えてもらい一緒に唄ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者との時間を十分持つて頂き、近況報告や相談などを行っている。家族の方にもできる支援をしていただき、職員と家族が一体となった関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、失礼のないように、関係などをお尋ねし面会や電話ができるようお願いしている。	地域で暮されている馴染の方や親戚の方との関係が途切れない様支援し、継続的な交流が出来る様働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が支え合い、孤立しないように工夫して場面づくりを行っている。お互いが会話できるよう時に職員が入りクッション的な役割で工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、これまでの関係を大切に、介護の相談があれば受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切に、会話などから本人の思い、やりたい事(買いたい物、食べたい物、外出)などを把握し、実現できるように取り組んでいる。困難な時は、身体状況も考慮しなるべく本人の希望に副えるよう取り組み、言葉で伝えることが難しい方には表情や動作で把握し、できるだけ副えるようにしている。	ケアプラン作成時家族や本人との話し合いの中や日々の会話から把握し、希望や意向については、可能な限る本人の思うに添うように取り組んでいる。困難な場合は表情や行動から把握すると共に家族と相談し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や過ごし方や生活環境や交友関係を本人や家族から聞き取り、日々関わったことなどの記録をし、サービスやケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や送りやミーティングで1日の過ごし方や心身状態(顔の表情・行動・言動などの変化)を把握し、自分でできる事、援助が必要なことを見極めながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望と情報を聴き、その人に応じた支援が必要なのか、本人、家族、必要な関係者(Dr.・Ns・PT・OT・ST・CW)等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	基本情報やアセスメントを基に暫定プランを立て、サービス担当者会議で課題等について話し合い、家族や本人の意見を重視した計画を作成している。一人ひとりに合わせモニタリングを行い定期的に見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護日誌・経過記録やケアサービス評価表に記録しながら評価している。 職員全員が閲覧でき情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関による連携、訪問診療、訪問看護、受診などの支援をして取り組み、毎月2回PT・OT・STなどによってリハビリ相談の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、小学校、公民館、消防署、警察など地域の方たちの協力を得ながら地域の行事に参加したり、ホームの行事にも地域の方に参加して頂き、楽しく過ごして頂ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療と受診の支援をしている。本人の希望を大切に家族とも情報交換を行い、納得と理解の上で、適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回の往診、看護師による週1回の訪問、PTや薬剤師等の訪問も定期的であり、常に適切な医療が受けられる様支援されている。受診結果等についても家族との情報の共有も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間連携体制の契約をし、相談など24時間対応している。協力医療機関の看護師にも相談に乗って貰い適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と家族に連絡を取り合っている。入院時には、医師や看護師やMSWに退院に向けての相談をしたり、状況を把握し、退院後のケアに向けて準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族に、入居時と入居後には随時、話し合いをし、理解を得ている。「看取り介護」の勉強会などで話し合い、学んでいる。(看取り介護ガイドライン)医師や看護師や地域初期支援者と対応など検討し、支援に取り組んでいる。	利用開始時終末期についての説明と希望等を聞くと共に状況によりその都度、家族と話し合いを持ち、医師や看護師、職員が共有しチームで支援に取り組まれている。体験もされている。又看取りの報告書を作成し、問題点等は今後の活かし、家族の想いを汲みとりながら支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の看護師を講師に迎え、「急変時の対応」等の勉強会を定期的に開催している。「AED講習」も地域の方にも参加していただき実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地域初期支援者の協力で年2回「消防訓練」を実施。「通報・避難訓練」「肢体不自由者の搬送講習」「消火器及び火災報知設備の取扱習得訓練」など実施し、地域との協力体制が築けている。	災害時の一連の流れについての研修を行うと共に島内の事業所防災連絡会を立ち上げられ、事業所同士でも連携を取り協力していく取り組みをされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分に注意をし、常に相手の立場に立った声かけが行えるよう心がけている。職員間でも同様に、個人情報の取り扱いに注意を払い「プライバシー保護研修」の伝達講習等で、言葉かけや対応を学んでいる。	個人情報をはじめ、プライバシー、接遇等の勉強会を実施し、接遇についてはテーマを決めそれを毎朝唱和し、言葉かけや態度等について、その人の尊厳を大切にされた対応に心掛ける様に周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に応じた質問や声かけを行い、今、何がしたいのか希望を聞きだし、自分で決めて、行動に移せる様な声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の押し付けの介護にならない様に、その方のペースで生活ができ、楽しく、穏やかに、充実した日々が過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に、行きつけの理容室、美容室など、行きたいお店などへ家族の協力を得ながら行っている。「おしゃれサロン」を行い、日常的身だしなみへの気付きやおしゃれをする事への変化などを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に合った音楽を流している。隣同士会話を楽しみながら食事をしている。個々に応じ、テーブル拭きや食事の片付けなど一緒にしている。	身体状況に合わせた形態で、昔のお祭りの話や色んな会話しながら楽しく食されていた。管理栄養士の献立の下で栄養バランスに配慮された食事となっている。又、3ヶ月ごとに栄養相談もあり、栄養改善の研修や意見交換なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を、手作りにより、一人ひとりの状態に合った量や形態(トロミ・キザミ食・ミキサー食等)にして食べやすい工夫をし提供している。水分量にも注意し、食事摂取量とともに確認して記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	STの訪問相談の時に、個々にあった口腔ケアの確認とアドバイスをケアに活かし、毎食後、口腔ケアの支援(見守り・声かけ・介助)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を大切にしながら、自立に向けた排泄ケアの支援をしている。	生活リズムや排泄パターンを把握し、声かけでトイレ誘導し自立に向けた支援をされ、出来るだけ布パンツで対応する様取り組まれている。声かけの配慮もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操などに参加されたり、天気の良い日には、散歩などをされている。また、排便コントロールが必要な場合は、主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回、午後からの入浴になっている。入りたいと希望があればその都度対応している。拒否される方がいれば、その時の体調に合わせ、清拭や足浴で対応している。	回数や時間帯は決められているが、希望により順番や回数等も柔軟に対応している。拒否の場合はタイミングや声かけを工夫したり、また、身体状況に合わせ清拭や足浴で対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室にて横になり少し休んでいた。車イスの方は、長時間の座位にならない様に時間を決め横になって休んでもらっている。室温・湿度を保ち安心して気持ち良く良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から効能・用法の説明を受け理解し症状の変化、状態について報告している。服薬時には声だし確認(名前・薬)と飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の会、歌の会、おしゃれサロンなど本人の好きな事や出来る事をしていただいている。洗濯物干しやたたみ、ぬり絵、ちぎり絵など、その方が出来る事は積極的に声かけをして行って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や地域行事など積極的に参加している。その時は、家族の方や地域の方にも協力をいただいている。又、その方が好きな買い物やドライブも計画を立て行っている。	四季の外出や運営者の病院のコンサート等に出向いたり時には外食などに出かけ、五感刺激や気晴らしの支援に心掛けている。天気の良い日はお庭で日光浴を楽しまれる事もある。機能維持の為にラジオ体操も毎朝される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は所持して頂いている。管理が難しい方には、預かり金として預り、本人が希望する時(買い物等)に渡している。家族の了解を得て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時、相手先を確認して電話の利用を支援している。 職員が代わりに連絡を行う事がある。 手紙の投函の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出る様な環境作りをしている。花を飾り、四季折々の風景を味わって頂ける様工夫している。	リビングからは馴染みの海や隣の畑の木々も見られ季節感を味わう事が出来る。又、ご飯の炊ける匂いや音などで家庭的な雰囲気が感じられる。毎日室温や湿度を管理され対応されている。嫌な匂いもなく落ちついて過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビやソファや畳の間があり、ベランダや玄関脇にはイスを置いて、思い思いに過ごして頂ける環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談して使い慣れたテレビや家具や机などを持ってきて頂き、壁には絵や写真などを飾り、過ごしやすい環境を整えている。	思い出の写真や趣味の物、家具、テレビ等が持ち込まれ、その人らしさが感じられる居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室の前には表札があり、手洗い、浴室の戸も大きくわかりやすい表示にしておき、利用しやすく工夫している。レースのカーテンやすだれ等で強い光にも対応している。見守りや声かけなどで安全を確認し、自立した生活が送れるように支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる仕組みとして、ホーム勉強会や法人全体の研修会を行ったり、外部研修・勉強会の情報を提供し参加できるように取り組んでいるが、参加の機会が少なく、介護職員として必要な知識や実践力を身につける機会が少ない。	認知症専門介護士としての技術を向上させるという目的をもち、ホーム勉強会・法人全体の研修に参加する機会を作り、自己学習意欲を高める。	ホーム勉強会や法人全体の研修会以外にも学ぶ、知る機会を作り、学んだことを実践に活かせるように指導する。	12カ月
2	10	家族会などで家族の希望、要望を引き出し、運営に反映させているが、もう少し引き出すための工夫、改善が必要である。	希望や要望に応じていく中で、入居者やご家族の思いを大切にされたケアを実践する。	家族会やホーム便りで日頃の状況を伝える中で自由な意見をもらい、出された意見に対して検討し対応する。	6カ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。